

小学校第2学年 道徳学習指導案

日時 平成26年10月9日(木) 第2校時
指導者 教育センター所員 山崎 秀隆

1. 主題名 生きものにやさしく【内容項目3-(2)動植物愛護】
2. 資料名 「虫が大すきーアンリ・ファールブル」(出典「わたしたちの道徳」読み物資料)
3. 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

人間は自然との調和を図りながら生きてきており、動植物もまた、自然の中で環境に適応しながら生きている。どちらも地球に住む生き物として自然の中で生かされていると言える。しかしながら、科学技術の進歩に伴って自然が減少し、人工的な物の豊かさや便利さにばかり頼って、自然の中に価値を見いだすことができなくなりつつある。

自然体験が減っている今だからこそ、自然と触れ合う素晴らしさや動植物を慈しむ心、共に生きていこうとする素地を育てていく必要がある。動植物のもつ不思議さや命の大切さを感じ、優しい心で接していこうとする態度を育てることは大変意義深いと考える。

○児童の実態について

低学年の児童は、動植物に興味をもっており、世話をしながら観察したり、成長を楽しむにしたりしている。

本学級の児童も、全員が動植物を育てた経験がある。ミニトマトやキュウリの栽培では「早く大きく育てほしい」、金魚やカブトムシの飼育では「長生きしてほしい」といった気持ちで生き物と接しており、育てることの楽しさや喜びを感じている。

そこで、これまでに感じた楽しさや喜びだけではなく、動植物にも友達と接するときと同じように優しい心をもって接していこうとする態度を育てていきたい。

○資料の活用について

本資料は、少年時代から虫の不思議さや命の力に魅せられたファールブルが、大人になってからも観察を続け、その記録を「昆虫記」という本にまとめる話である。ファールブルにとって虫は、小さな体の中に大きな驚きをもっている生き物であり、人と同じように話し掛ける存在である。ファールブルが小さい頃に鳴いている虫を見つけたときの気持ちやアリの行動の不思議さに興味をもって観察しているときの気持ちに共感しやすく、自分が虫を観察した時の気持ちを想起することができるであろう。また、観察が終わると虫に話し掛けながら逃がしてあげるところに、虫に対する優しさが感じられ、自分も同じように優しくしていきたいという思いをもつことができる資料である。

ファールブルの生き物に対する優しさを感じ、自分も同じように接していきたいという気持ちをもつだけでなく、実際の行動に表すことができるようにするという視点で資料を活用していきたい。

○指導の重点

事前指導で、これまでどんな気持ちで動植物の世話をしてきたのかを「わたしたちの道徳」に記入させておく。導入において、そのときの気持ちを振り返らせることで「これまでの自分」を確かめさせる。展開では、まず、ファールブルが虫の観察をしているときの気持ちを考えさせることを通して、虫の体や行動は生きるための力につながっていることに気付かせたい。次に、観察を終えた後に虫を逃がしているときのファールブルの気持ちを考えさせ、自分も同じような気持ちで生き物に接していきたいという思いをもたせたい。さらに、生き物に優しくするにはどうすることなのか具体的な行為を考え、発表させることで実際に行動しようとする態度を育てたい。また、これからどんな気持ちで生き物の世話をしていきたいかを付箋紙に書かせ、「わたしたちの道徳」に貼らせる。「これまでの自分」と「これからの自分」を比較させることで、気持ちの高まりを感じさせたい。終末では、生き物に対する優しさが表れた児童の作文を紹介することで気持ちを共有して授業を閉じたい。

4. ねらい

生き物の命の力に気付き、優しい心で接していこうとする態度を育てる。

5. 指導の視点

「わたしたちの道徳」を生かした授業展開について

- ・ 発問構成やワークシートの内容は、読み物資料を生かしてねらいとする道徳価値の自覚を深めるのに有効であったか。
- ・ P103 の書き込み部分を使って「これまでの自分」と「これからの自分」を比較させたことはねらいとする道徳価値の自覚を深めるのに有効であったか。また、読み物資料との組み合わせ方は有効であったか。

6. 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 ^{期待される児童の変化(教師の願い)}
導 入 ／ 展 開 ／ 終 末	1 生き物を育てたときの気持ちを確かめる。	○これまでどんな気持ちで生き物を育てましたか。 ・大きく育ててほしい。 ・長生きしてほしい。 ・元気でいてほしい。	・「わたしたちの道徳」P. 103 に書いていたことを読み、そのときの気持ちを想起させる。 ・ファーブルの写真を提示し、名前や著書を紹介し、資料への興味をもたせる。
	2 「虫が大すき」の資料を読み話し合う。	○ファーブルは虫を観察しながらどんなことを考えていたのでしょうか。 ・ふしぎだな。 ・おもしろいな。 ・もっと調べたいな	・ただ見たり、捕まえたりしていたのではなく虫の体のつくりや生きるための能力を見付けようとしていたことをおさえる。 虫の不思議さや命の力を多くの人に知らせたいというファーブルの気持ちとすべての生き物が生きるための能力をもっていることに気付くことができる。
		○ファーブルはどんな気持ちで虫をにがしていたのでしょうか。 ・いろいろ教えてくれてありがとう。 ・元気でね。 ・長生きしてね。	・「にがす」ことだけが優しい行為ではなく、ファーブルが虫に対してどのような接し方をしていたのか想像させる。 興味だけではなく、人に接するときと同じ気持ちで接していることを感じ、自分も同じようにしていきたいという思いをもつことができる。
		◎生き物に優しくするとはどうすることでしょう。 ・えさや水をあげる。 ・かわいがってあげる。 ・声をかける。 ・育て方を調べる。	・「優しい行為」「優しくない行為」について具体的に考えて分類させ、ワークシートに書かせた後に発表させる。 生き物に優しく接するとはどのようにすることなのかを具体的に考えることができる。
／ 終 末	3 これから生き物を育てるときの気持ちを考える。	○これからどんな気持ちで生き物を育てていきたいですか。 ・生き物の気持ちを考えたい。 ・最後までお世話をしたい。	・付箋紙に書いて「わたしたちの道徳」P103 に貼らせることで「これまでの自分」の気持ちと「これからの自分」の気持ちを比較させる。
	4 児童の作文をスライドショーで視聴する。	○作文を書いた友達の気持ちを考えながら見ましょう。	・友達の生き物に対する思いに触れさせることで自分も同じような気持ちで生き物に接していきたいという思いをもたせる。

7. 評価

生き物への優しい接し方を考え、これから優しい心で接していこうとする思いをもつことができたか。(発言・ワークシート・付箋紙)